

(礼拝後：臨時教会総会)

説教題：「**古い自分を脱ぎ捨て**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙4章17-32節 (356頁)

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 53 交読詩編：詩編119編49 - 56節 (133頁)

讚美歌：83/514 (美しい天と地の造り主) / 430 (とびらの外に) / 81 (主の食卓を囲み) / 27

「今週の聖句」〔…滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け…〕 (エフェソ書4：22-24)

「牧師室の窓」 「待ちわびた九月桔梗(ききょう)の紫の五弁の花に会えた嬉しさ」

「ニューヨーク同時テロにて君は逝く多くの命退避果たして」

(1)皆様おはようございます。本日はエフェソの信徒への手紙4章の後半を読んで参ります。先月8月10日にエフェソ書第4章の前半1節～16節を読みました。その時に申し上げましたが、エフェソ書は全部で6章あり、1章から3章までの手紙の内容を受けて、この第4章からはクリスチャンがこの世の中でどの様に生きるべきかをその具体的な手法についてパウロは話し始めようとしています。その第4章の前半に書かれている内容のポイント・中心聖句は4章7節に書かれています。〔(エペソ書4:7)…わたしたち一人一人にキリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。〕この聖句の意味をいま一度考えてみましょう。私たちには見ることは出来ませんが「キリストの賜物のはかり」があるのです。どのような「はかり」なのでしょう。それも「わたしたち一人一人に」定められたと言うよりは、「わたしたち一人一人に」用意された「恵みが与えられている」のです。と言うことは、クリスチャンがこの世の中でどの様に生きるべきかをその具体的な方法についてパウロは話し始めようとしていることがご理解できますでしょう。

聖書は、現代社会や学校の教科書と異なります。現代社会では、人間が平等であることを前提として、権利を主張し、経済的な或いは政治的な恩恵を平等に与えられることを目指します。加えて、経済的な政治的な恩恵は数字や金額で測ることが求められています。しかし、注意しなければなりません。数字や金額で測られた平等がその人に幸福を与えるのか否かは全く別物と言えるでしょう。

聖書のエフェソ書4章7節には「恵みが与えられています」と翻訳されていますが、原文であるギリシア語では、「恵みが既に与えられています」という意味であり、英語の翻訳では「恵みが与えられた」と過去形で書かれています。「恵みが与えられた」クリスチャンがこの世の中でどの様に生きるべきかをその具体的な手法について本日の聖書箇所は私たちに伝えようとしています。

(2)今日の聖書箇所4章17節18節を見てみましょう。〔(4:17)そこで、わたしは主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み、(4:18)知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命(いのち)から遠く離れています。〕この17節に「異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み」と書かれていますね。「愚かな考えに従って歩み」とは、もっと分かり易く言いますと「虚しく人生を過ごす」と言い変えることが出来るでしょう。皆様は「虚しく人生を過ごされた」ことはございませんでしょうか。私は思うのですが、「虚しく人生を過ごす」ことは誰にもあるのではないのでしょうか。でもある時に、この様なことではいけない、私は自分の人生を見失っていると気が付くことが大切です。「神の命(いのち)から遠く離れている」と気が付くか否かが人生の分かれ道になります。旧約聖書の創世記3章にアダムとエバが食べることを禁じられていた木の実を食べてしまい、神の姿を見て身を隠す場面があります。主なる神は「どこにいるのか」と問い掛けます。私たちも「どこにいるのか」と問い掛けられているのです。同じく旧約聖書サムエル記上3章で

は、主に呼び掛けられたサムエルは「どうぞお話し下さい。僕(しもべ)は聞いております」と答えました。ルカ福音書15章に書かれている「放蕩息子」は「我に返って言った」のです。「わたしは…罪を犯しました」そのことが新しく生きる出発点になったのです。

ご参考までに17節に書かれている「異邦人と同じように歩んではなりません」と似ている言葉に、ローマの信徒への手紙12章2節に「あなたがたはこの世に倣(なら)ってはいけません」と言う聖句があります。併し、ギリシア語の原文の意味は「この世と同じ姿かたちにさせられてはならない」と言う意味です。それは、この世の中とは縁を切って生きなさいと言っているものではありません。洗礼を受けた私たちは神によってこの世の中に生きていても、神と共に生きる人間とされることを示しているのです。

(3) 19節に書かれている様に私たちの周りには「無感覚になって放縦な生活」が取り巻いています。20節21節のパウロの言葉に耳を傾けてみましょう。〔(4:20)しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだではありません。(4:21)キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。〕この箇所の意味は、4章5節に書かれている〔(4:5)主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ〕と言うことを自分勝手に解釈してはなりませんと理解することが出来るでしょう。心の拠り所をしっかりと持つことが「無感覚」「放縦な生活」から私たちを守ることになります。例えてみれば、海図なき航路を進むのに、北極星を頼りに暗い海原を行く航海に似ています。私たちの人生もその様に例えることが出来ますでしょう。「キリストに結ばれて教えられ」とは、人生を進み行く海図が与えられ、エンジンが供えられたと言うことに他なりません。

もう少し言いますと、私の学生時代には、北海道を走る特急列車は蒸気機関車でした。蒸気機関車を動かすためには、石炭を入れ、窯の火を絶やすことなく、蒸気となる水を絶やすことなく、絶えず注意しなければなりません。手を動かさずに機関車が走ることはありません。「キリストに結ばれて教えられ」てその人の人生を歩む喜びがあるのです。

(4) エフェソ教会の人々がどの様に行動すべきかの基本をパウロは22節～24節で語り、その基本に基づいた具体的な行動指針を25節以下で示しています。

22節～24節を見てみましょう。〔(4:22)だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、(4:23)心の底から新たにされて、(4:24)神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。〕ここに書かれていることをどの様にして実現するのは、人に教えられて、アドバイスを受けて出来るものではありません。自分で考えて、自問自答しながら、繰り返して身に着けることにあります。現代の私たちを取り巻いている簡単にできる方法や費用を掛けずに得られる方法、タイムパフォーマンスが良い、コストパフォーマンスが良いのとは異なります。

併し、パウロは25節以下に新しい生き方への道筋を示しているのです。「自己改造計画への手引書」と言っても良いでしょう。「(25節)偽りを捨てて…隣人に対して真実を語りなさい」「(26節)怒ることがあっても、罪を犯してはなりません」「(28節)労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい」「(32節)互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい」などなど、具体的な例を示して、「古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、…新しい人を身に着け、…正しく清い生活を送る」ことを示しています。

パウロは、エフェソの信徒を、現代に生きる私たちを応援しているのです。応援団が応援しているのです。甲子園の高校野球にも応援団がいて、選手たちが応援席に感謝の挨拶をする姿がテレビ

画面に映し出されます。私たちも、日々の始めに、日々の終わりに感謝の祈りをささげて参りましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、夏の日々の中を生活し、秋の9月を迎えました。あなたと共に生きる日々を与えて下さりありがとうございます。健康な者にも、体の弱い者にも等しく御(み)恵みをお与え下さいますことに感謝します。主なる神様との祈りの時が私たちに安らぎと喜びの時となります。

秋は収穫の時です。私たちが、人々が日々の食べ物を得て生活できますように祈ります。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。　アーメン